

## エンジン全開 ～副会長に就任して

2012年4月1日東京弁護士会の副会長に就任した。ここ10年程、弁護士会の会務から離れていたのが、突然の大役にいささか面食らいながらのスタートとなった。

東弁の業務は多方面・多岐にわたり、その幅の広さにまず驚かされた。6人の副会長の担当を決める委員会・協議会・東京三会の諸会議、対外的な連絡協議の他、弁護士会の経営的立場としての、職員人事、労務等、なんと184もの業務があり、そのうち、私は筆頭の副会長として、39の主担当、15の副担当を担うことになった。

その主なものは、資格審査会、懲戒委員会など会員の身分に関するもの、職員人事・労務・労使対応など会の職員に関するもの、東弁総会、常議員会、理事者会など会の意思決定に関するもの、人事委員会や総務委員会など会務の執行の基になるもの、三会理事者会、司法協議会、市民会議など対外的な活動に関するものなど、これも多岐にわたっているが、今年の最も特徴的なものは、東京三会の東日本震災対策本部の担当である。昨年の東日本大震災と福島原発の被害に対して東京三会で、被災者相談等始め様々な支援活動を行ってきたが、今年は、東京弁護士会がその担当会ということで、中心的役割を担うことになった。

次に驚かされたのは、稟議・決裁する書類の多さである。毎日、何十通という書類に目を通して、判を押す。担当委員会や様々な会合の合間に、役員室の副会長の席に戻り、決裁処理をしないと、自分の業務だけでなく、弁護士会の業務が滞ってしまうので、必死である。

また、理事者会での検討・議論・決議も大変である。就任前、週2回、1回2時間半程度の理事者会があると聞いて、何をそんなにやることがあるのか不思議



副会長 古川 史高 (35期)

主な担当業務  
災害対策本部、資格審査会、懲戒、職員人事、総会、常議員会、市民会議、入退会、綱紀、人事、総務、各種委員長会、紛議調停、法廷など

であったが、いざ、自分達が担当して理事者会を行ってみると、それでも時間が足りない位である。やむを得ず、日曜日や夜に会館外で臨時の理事者会を何度も開かざるを得なかった位である。

そんなこんなで、朝9時頃（9時開始の会合も結構多い！）から夕方まで会務をこなしたところで、夜の会合もそこそこ多い。

酒席や他の人との会話は決して嫌ではない（むしろ大好き？）ので、苦にはならないが、あっという間に一日が終わってしまう感じになる。

幸い、今年は、民暴委員会の委員長や司法研修所教官（刑事）、東京パブリックの所長を歴任された中城重光副会長、弁護士会の法律相談センター委員長経験者で大変知見の深い大西英敏副会長、関弁連理事や日弁連監事の他教育委員なども経験されている白井裕子副会長、広報委員会委員長や司法研修所の民弁教官の経験もある石原修副会長、元東弁監事として東弁財務に深い知識のある山田宣郷副会長と多士済々であり、それぞれの専門、得意分野を持つ方が副会長となっているので、大変心強い陣容である。

斎藤義房会長は、兼務する日弁連の筆頭副会長としての職務も大変重く、激務という他はないが、笑顔絶やさず、積極的に職務をこなしている姿に敬服せざるを得ない毎日である。

私達6人の副会長は、その会長の職務を補佐し、連携をとり頑張っている。

この7人の正副会長と、「厳しく財務チェックする」役割の仲隆、佐々木広行の両監事と一年間うまくやっていた感じが出来てきている。来年、職務明けの打ち上げ旅行が楽しみでワクワクしている（鬼が笑ってる！）。